

ダンボールコンポスト成功のポイント

1. 生ごみの混ぜ方、埋め方

- (1)前日に入れた生ごみをかき混ぜてから穴をほり、真ん中に生ごみを入れる。
※当日の生ごみは固めて入れる。
※生ごみが少量の場合→大きく混ぜると水分が飛び分解が遅くなるので、真ん中で混ぜ、小さい穴を掘って生ごみを入れる。
- (2)掛け布団をかけるように、生ごみを基材でふんわりと覆う。
- (3)ダンボール箱の周りの基材を残しておく。
その理由は→①ダンボールに生ごみをつけたり、混ぜる時にスコップをあてたりするとダンボール箱がいたむ。
②基材の緩衝作用で臭いが出にくい。
③保温効果があるので、冬場は分解の手助けになる。

2. 分解が遅くなったら「天地返し」

- (1)「天地返し」の方法
・大きなビニール袋やシートにダンボール箱の中味を入れ、かたまりをほぐしながら良く混ぜる。かたまりがなくなりフワツとしてきたら中味をダンボール箱に戻し、再び生ごみの投入を続ける。
※天地返しは、分解が遅い時や1か月に1回程度すると良質な堆肥ができる。

3. 臭い

- (1)魚のアラなどのたんぱく質が入ると、臭い(アンモニア臭)が強くなる。
- (2)生ごみが多い時や、かき混ぜ方が少ない時も臭いが発生する。
- (3)臭う時は、2,3日間、よくかき混ぜて空気を送り込むと消える。

4. 堆肥が上手にできつつある目安

- (1)温度の上昇よりもダンボール箱の中味の量が増えていないこと。
※中味が乾燥していると、分解が進まず量が増えるが、これはダメ！
- (2)腐敗臭がしないこと。
- (3)中味を握ると少し形が残る程度が良い。水分過多はベトベトし、臭いも発生する。
※中味はカサカサもダメ、ベタベタもダメ。失敗しながら経験を重ねることで分かるようになる=あきらめないで経験値が大切。